

# NEWS & LETTER

ADCA農業実践研修 2019年度第2回

vol.02 2019.7.19

## 実習のひとコマ

農薬散布、手動から機械化へ！  
機械のインパクトを目の当たりに。



農薬散布方法の見学(左:手動式、右:自動式)

海外の現場では背負う手動式タイプの農薬噴霧器が多いですが、重く、ポンプを手動で動かすことが大変です。日本では、エンジン付き農薬噴霧器が利用されており、その威力を目の当たりにしました。計画をたてて農薬散布を行うこと、正確に洗浄を行う等の安全面での管理も重要です。



この多角形の  
斑点が病名  
診断のポイント!!

昔ヨーロッパに  
衝撃を与えた  
要因はジャガイモ疫病…



JICA 筑波における講義の様子

令和元年 第二回  
ADCA農業実践研修を  
開催しました。

病害虫管理がなければ食料危機に

7月11日(木)及び12日(金)に第二回ADCA農業実践研修「病害虫対策と農薬使用」をJICA筑波にて開催しました。今回の研修には、合計8名の開発コンサルタントや国際協力分野の関係者が参加しました。

1日目は、講師の匠原氏よりご自身の経験、バナナやジャガイモの病気等の病害の歴史、病原体の種類、伝染方法、病気の発生要因等の基礎的事項を講義して頂きました。その後、主要野菜に発生する病害とその病原体の種類や、症状が似ているため判断が難しい病名について学びました。実習では、圃場やビニールハウスで野菜を観察し、参加者は病害診断の難しさを実感していました。

研修の2日目は、植物ウイルス発見の歴史とウイルス粒子の形態、病気の症状、ベクターの種類と伝搬様式、ウイルス診断法、稲の生育にあわせた防除時期等をご説明頂きました。また、農薬散布機を用いた実習も行いました。病害虫管理は、海外の農業においても、農家の農産物生産の向上や、食料の安全保障のために必要とされる重要な技術です。安全面も含めた適切な管理技術の提供が重要だと感じました。

## 研修の講師紹介



NPO法人国際農民参加型技術ネットワーク (IFPaT)

匠原 堅一郎氏

今回の研修を担当して下さった匠原氏は、日本の植物防疫に関する経験から、南米における植物防疫の指導経験まで、ご経験が大変豊富な方です。

植物防疫の歴史や学術的背景、現場での経験と見識に基づいたお話より、参加者の理解も深まりました。

編集:ADCA青年会議メンバー  
森田・菅野・菊谷



(上)圃場での病害見学の様子、(左下)農薬散布機器、(右下)講義の様子

## 参加者からの声

病害虫診断の難しさを実感した!!

研修後に実施した

アンケートより

「圃場での観察、実習では、植物の病害診断の難しさを改めて実感した」、「病害への対処方法の話や農薬の話をもっと聞きたかった」等の感想が挙げられました。質疑応答も活発に行われ、各々学びのある研修になりました。

次回は、農薬散布や生物検定を実習に盛り込むなど、より実践的な研修内容を検討したいと思えます。